

千秋公園さくら再生基本計画 (概要版)



平成 23 年 3 月

秋 田 市

1 背景と目的

(1) 背景

千秋公園のさくらは、明治25年(1892)、後に第2代秋田市長となる^{はにゅうしなり}羽生氏熟氏を総代とする「有終会」の寄付によって植えられた1,170本に由来している。

公園内には、現在814本(ソメイヨシノ693本、ヤマザクラ33本、ヤエザクラ26本等)が植えられており、秋田市を代表するさくらの名所として多くの市民から愛されている。

さらに、平成2年には財団法人日本さくらの会から「さくらの名所百選」に選定されている。

しかし、千秋公園のさくらを巡る環境は、老木化、根元の踏圧など必ずしも良好な状態とは言えず、樹勢の衰退が進んできている。

また、平成12年度から、市民参加によるワークショップを開催しながら、土壌改良などの樹勢回復作業を計画的に進めてきているものの、平成20年度の植生調査では約半数が衰退状態、もしくは、枯れている状態となっていることが判明した。

このような状況の中、千秋公園のさくらに役立てて欲しいという善意から始まった「千秋公園さくらファンド」への協力などから、市民のさくらの保全・育成に対する気運が高まってきている。この気運をさらに高めるためにもファンドの有効活用や市民参加によるさくらの保全・育成方法の検討が不可欠となっている。

(2) 目的

この再生計画は、歴史ある千秋公園のさくら景観を、秋田市を代表するさくらの名所として次世代に伝えるため、さくらの生育環境の改善による樹勢回復を図るとともに、回復が見込めないさくらの更新についても、「千秋公園さくら再生基本計画」に定め、さくら再生の基本方針とすることを目的とする。

また、公園内には、さくらのほかツツジ・ケヤキ・マツ類など、歴史的・景観的に重要な樹木も多く、さくらのみの植生基盤改善とすることは困難であることから、さくら再生とあわせて、その他の樹木の管理についても検討を加える。

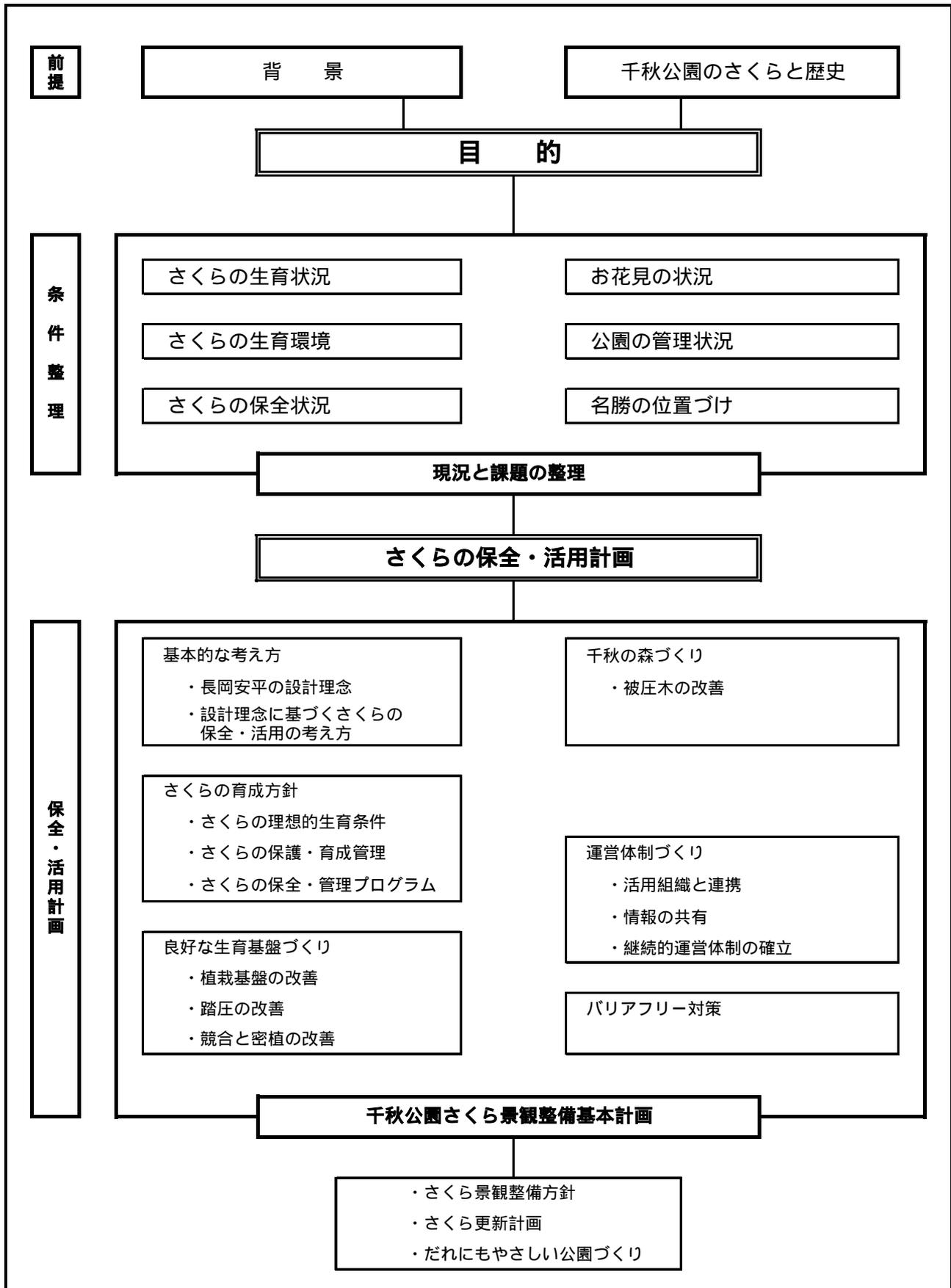
千秋公園さくら再生基本計画理念

千秋公園を、秋田市を代表するさくらの名所として次世代に引き継ぐ

(3) 千秋公園さくら再生基本計画策定のフローチャート

千秋公園さくら再生基本計画は、図1-1のフローチャートに従って、検討委員会で2回の現地調査を含め、4回の検討を行い策定したものである。

図1-1. さくら再生基本計画策定時のフローチャート



2 現状と課題

調査は、日照条件や地勢要件、園地としての利用形態から、図2 - 1の12調査区域に分割して、さくらの生育状況・生育環境の現状調査を行い、その結果から、さくらの生育阻害要因を抽出した。

図2 - 1 調査区域

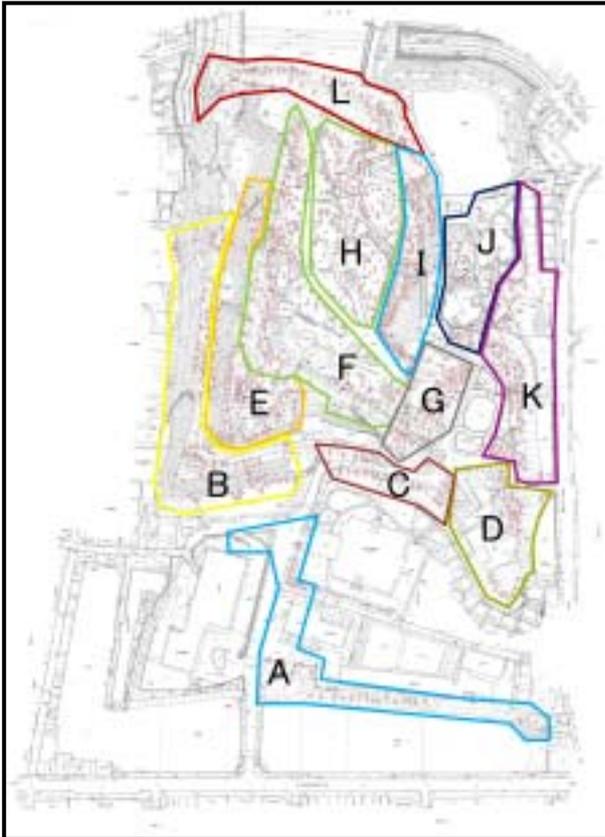


表2 - 1 . さくら調査区域別本数

項目 調査区域	調査本数
A	34
B	71
C	22
D	40
E	82
F	135
G	65
H	112
I	101
J	27
K	77
L	48
計	814本

(1) さくらの種類と本数

公園内には、表2 - 2に示すように、全体で10種類、814本のさくらが生育している。種類は、ソメイヨシノが693本と一番多く全体の85%で、次にヤマザクラ33本、ヤエザクラ26本と続いている。

表2 - 2 . 調査区域毎のさくらの種類と本数一覧表

調査区域	ソメイヨシノ	ヤエザクラ	フゲンゾウ	シダレザクラ	オオシマザクラ	ヤマザクラ	カスミザクラ	ウコン	ウミザクラ え、不明等	総本数
A	26	1	5	0	1	0	1	0	0	34
B	45	5	1	2	0	13	2	0	3	71
C	18	1	1	0	0	1	0	0	1	22
D	35	0	0	0	0	0	2	0	3	40
E	62	6	2	0	0	0	5	1	6	82
F	128	1	1	1	0	2	0	0	2	135
G	62	1	0	0	0	1	1	0	0	65
H	101	5	2	1	0	3	0	0	0	112
I	90	0	1	0	0	9	1	0	0	101
J	19	2	1	0	0	1	2	0	2	27
K	70	1	0	3	0	0	2	0	1	77
L	37	3	0	0	0	3	4	0	1	48
計	693本	26本	14本	7本	1本	33本	20本	1本	19本	814本

(2) さくらの生育環境

さくらを巡る生育環境は老木化、根元の踏圧、さくら同士の競合、他の樹木による日照不足など、必ずしも良好な状態とはいえない。

さくらの生育環境を把握するため、樹勢調査を行った結果から、表2 - 3に示す調査区域毎の生育良好木(旺盛+良好)の割合を算出した。

調査区域AとGは、70%以上生育良好であり、生育の障害となる要因が少ないと推測され、調査区域BとHはなんらかの重大な生育障害要因があると考えられる。

表2 - 3 . 調査区域毎の生育良好木の占める割合(旺盛+良好)

調査区域	調査本数	成育良好本数	割合(%)	成育状況
A	34	24	70 %	良好
B	71	24	33	障害が大きい
C	22	13	59	
D	40	23	58	
E	82	38	46	障害がみられる
F	135	56	41	障害がみられる
G	65	48	74	良好
H	112	18	16	障害が大きい
I	101	48	48	障害がみられる
J	27	15	56	
K	77	52	68	
L	48	22	46	障害がみられる
計	814 本	381 本	47 %	

(3) さくらの生育障害要因

土壌環境や日照、被圧など、さくらの生育障害要因と考えられる項目をまとめて、調査区域毎の生育不良要因として表2 - 4に示す。

表2 - 4 . 調査区域毎の生育不良要因

調査区域	項目	土壌	硬土	透水	踏圧	日照	被圧	競合
	A							
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								
I								
J								
K								
L								

凡例 障害の可能性がある 障害が見られる

3 さくらの保全・活用方針

千秋公園の歴史的風格を維持しながら、さくらの名所として次世代に引き継ぐためには、現在のさくらの保全・活用とともに、樹勢衰退木の適切な更新を図ることが重要である。さらに、千秋公園の当初の設計者である長岡安平の設計理念である在来種による森づくりもさくらの保全・活用と同様に重要な要素である。

(1) 長岡安平の設計理念

長岡安平は、設計に際して、久保田城の歴史的遺構をよく残している土塁や御池などの城跡の活用、そしてさくら並木や城跡の風情を伝える松などの景観木の配置、さらには技巧を避け、太平山の借景まで取り入れ、自然の風韻をそのまま写し出すことを設計理念として表現している。この設計意図は、平成13年に発見された設計図からも読みとることができる。

長岡安平の設計による整備は、現在の胡月池、本丸西側のあやめ園と滝、松下門跡西側の滝などが残っている。

久保田城の歴史的地割を残し、市民が集う近代公園として設計した長岡安平の設計理念を引き継ぎ、100年以上の歴史的公園の風格を維持しながら次世代に引き継ぐ。

(2) さくら更新計画

歴史ある千秋公園のさくら景観を次世代に引き継ぐためには、樹勢衰退木の適切な更新を図ることが必要である。

また、平成20年の基礎調査をもとに、平成22年に衰退状況や被圧状況等を再調査した結果、衰退木は412本(50.6%)であった。

更新の基本的な考え方としては、この衰退木を第1段階の更新対象木とし、優先度から3区分(前・中・後期)とし、1区分はいや地(以前植えられていた場所に植栽すると生長が悪い)対策等から約5年として、第1段階を約15年位のスパンの更新計画を策定することとする。

その後、良好と判断された381本(47%)についても、再調査を行い、第2段階の更新対象木として、全体の更新計画は約30年の期間とする。

表3-1 さくらの更新計画

年度	項目	準備期間	5年	10年	15年	20年	25年	30年
管理運営	管理運営体制		[Blue bar]					
	管理プログラム		[Blue bar]					
準備	被圧木対策		[Green bar]					
	いや地対策		[Green bar]					
第1段階	前期 更新		[Green bar]					
	中期 更新		[Hatched bar: 中期準備工]	[Green bar]				
	後期 更新			[Hatched bar: 後期準備工]	[Green bar]			
第2段階	前期 更新			[Hatched bar: 前期準備工]	[Orange bar]			
	中期 更新				[Hatched bar: 中期準備工]	[Orange bar]		
	後期 更新					[Hatched bar: 後期準備工]	[Orange bar]	

更新とは、さくらの衰退木を全て新しい樹木に更新することではなく、さくらの生育環境改善等の作業も更新計画には含まれている。実施にあたっては、樹木及び植栽地の立地条件等がそれぞれ異なるので周辺環境調査や根系調査等を行い、目的にあった適切な更新手法で行うこととする。

(3) だれにもやさしい公園づくり

さくら再生を推し進めるとともに、多くの人に訪れてもらうには、公園内のバリアフリー化も重要な要素となる。特に自然の地形を利用した城跡公園であるため、勾配や段差が大きな障壁（バリア）となっている。

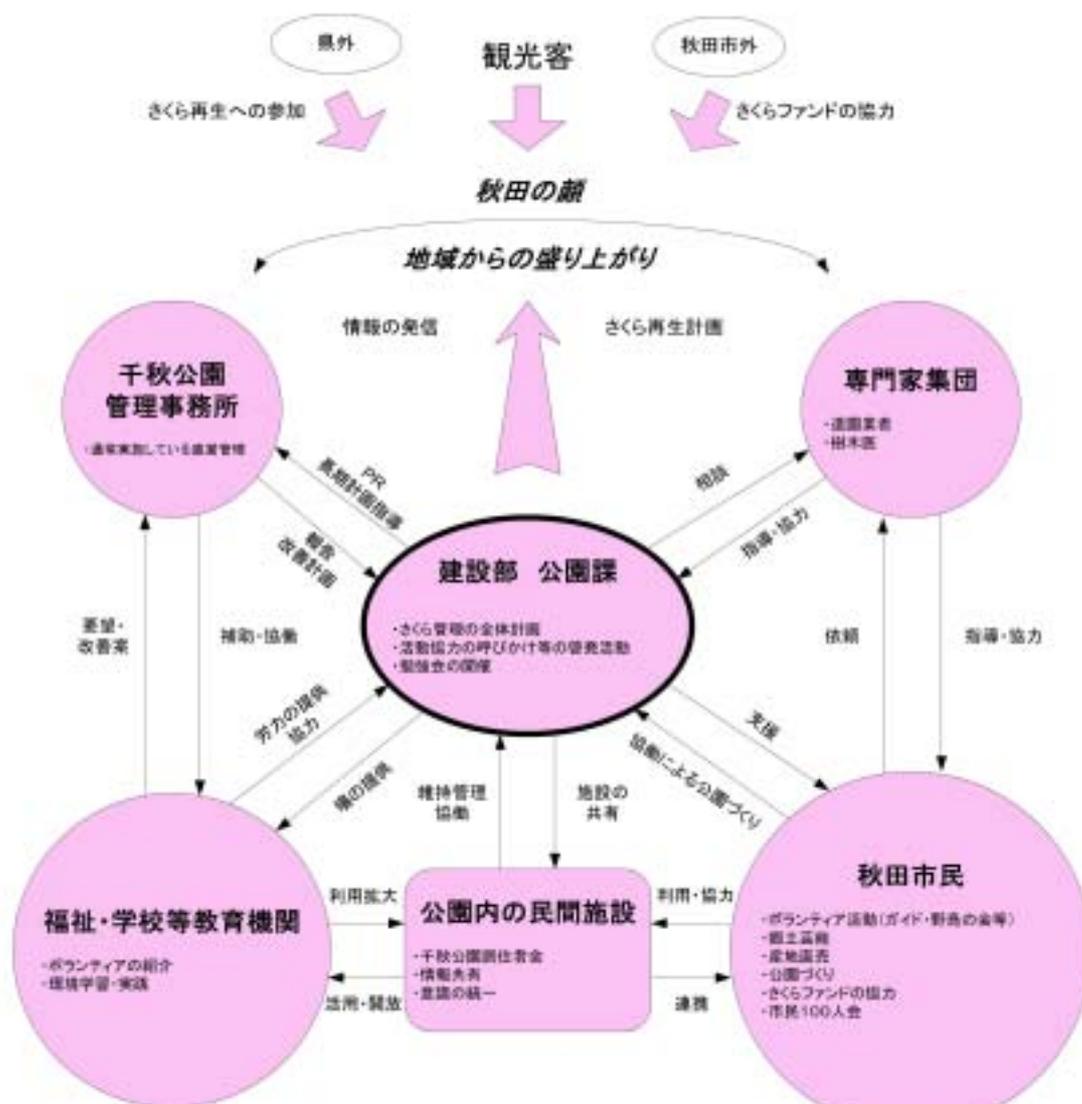
公園を利用する目的は、利用者によって様々である。しかし、その利用者の全てのニーズに対応できるような公園づくりは難しいものの、できる限り障壁（バリア）に対処できるような「だれもが気軽に利用できる公園」づくりが重要である。

については、バリアフリー化に意を用い、誰もがさくらを楽しめるように園路等を再整備する必要があるが、千秋公園の歴史的、文化財的価値を損なわないように十分な配慮も必要となる。さらに「だれにもやさしい公園」とは、人間だけでなく樹木や草花、野鳥等すべての生き物にとってもやさしい空間でなければならず、以上のことから、千秋公園のさくら再生は、「だれにもやさしい公園」を次世代に引き継ぐことでもある。

(4) 運営体制づくり

今後、千秋公園のさくら再生を進めていくには、行政だけでなく、市民・ボランティアグループ、学校等の教育機関、造園業者等の専門家集団、公園を利用する団体等からの理解や協力がかかせないことから、図3-1に示すような連携し協力しあえる運営体制が重要となる。

図3-1 運営体制図



4 千秋公園さくら景観整備基本方針

千秋公園のさくら景観を次世代に引き継ぐには、長岡安平の設計理念を引継ぎながら「千秋の森づくり」「歴史的遺構の保存」「さくらの名所」「市民との協働」「秋田市の顔」という5つの項目について、表4-1に示すさくら景観整備方針を定めた。

表4-1 さくら景観整備方針

区 分	整 備 方 針	整 備 メ ニ ュ ー
千秋の森づくり	郷土色豊かな森づくり (里山の景観づくり) 歴史的樹木の保全	1.千秋の森づくり 林縁の自生種の育成 (カスミザクラ、ウワミズザクラ、コナラ、クロモジ等) 2.初代のさくら 3.市の保存樹の保全・共生
歴史的遺構の保存	長岡安平の遺構 (設計図に基づいたさくら再生) 土塁とさくら 歴史的建造物とさくら(表門とさくら等)	4.胡月池 5.あやめ園と滝 6.松下門跡西側の滝 7.動物園跡地 8.八幡秋田神社西側 9.土塁のさくらの保全・樹勢回復 10.土塁のさくらと太平山 11.黒門跡の城跡景観再生
さくらの名所	さくら祭り(お祭りとさくら広場の整備) (ソメイヨシノの充実を図る) さくらのトンネル 花見期間の延長 (新たなさくら広場の創出)	12.お祭りとさくら広場の景観 13.花見の宴 14.さくらのトンネル(既存樹の保全・育成・更新) 15.子供とさくら広場の創出 16.新たなさくら広場の創出
市民との協働	さくらファンドの活用 市民参加、ワークショップ等の開催 さくら見守り隊	・さくら保全・更新(公園全体) ・樹勢回復(公園全体) ・さくら調査、観察(公園全体)
秋田市の顔	誘導計画(誘導ポイントづくり) 誘導拠点づくり 秋田市の顔(イメージアップ) 四季折々の千秋公園の演出 だれにもやさしい公園づくり	17.ボランティアの拠点づくり 18.秋田市のシンボルツリー 19.さくら再生のシンボルツリー 20.御隅櫓周辺 21.センターコート・集客・誘導の中心施設 ・誘導ボランティアの拠点づくり 22.外堀景観の向上(大手門堀、穴門堀) 23.内堀景観の向上・千秋公園の物語性 ・さくらと他樹種(アカマツ等)との共生(公園全体) ・公園のバリアフリー化(公園全体) ・ユニバーサルデザインによる公園づくり(公園全体)

